

特集

# 兵庫県南部地震から30年

## 1.17は忘れない

平成7年1月17日午前5時46分、兵庫県南部地震が発生し、明石市は大きな被害を受けました。私たちはあの震災を忘れることなく、その記憶や教訓を将来にわたり伝えていく必要があります。

兵庫県南部地震から30年を迎えた今、当時の様子を振り返りながら、災害に強いあかしのまちを次世代につないでいくための取り組みを話し合うため、市議会だより編集委員会を開催し、座談会を行いました。



地震発生時刻の午前5時46分で停止した天文科学館の塔時計



①石垣や樹木が倒壊(明石公園) ②平成7年3月定例会市議会で震災犠牲者に黙とうを捧げる(本会議場) ③地震の2日後に被災者相談センターを開設(市役所2階ロビー) ④缶詰などの救援物資の仕分け作業(市役所) ⑤屋根瓦がすべり落ちた民家(太寺)

### 座談会テーマ

### 「災害に強いあかしのまちを次世代につなぐ」

#### 市議会だより編集委員会



- 辰巳 浩司 議長
- 寺井 吉広 副議長
- 出雲 有希子 委員
- 河村 和歌子 委員
- 黒田 智子 委員
- 林 丸美 委員
- 上田 雅彦 委員

#### ■兵庫県南部地震を振り返って

**議長**：兵庫県南部地震から30年が過ぎ、震災を知らない世代も増えています。震災の経験や教訓を次の世代につないでいくことが大切ですが、当時を振り返って何か思うところはありますか。

**委員**：自宅が全壊しましたが、公の支援はすぐに届かなかったので、日頃の備えや近所との助け合いが大事だと実感しました。

**委員**：震災や災害の予測は難しいが、教訓や経験を生かして災害に強いまちや社会をつくっていかねばならないし、震災を知らない世代に語り継いでいく必要があると思います。

**委員**：当時は学生だったので友人とボランティアに行こうとしましたが、まずどこに行けばボランティアができるのかが分かりませんでした。ボランティアの情報やコーディネート的重要性を感じました。

**委員**：震災後、食料品店に全く食料品がなく、食べる物を手に入れることが大変でした。備蓄物資の必要性を感じました。



手前から 出雲委員、河村委員、辰巳議長、寺井副議長

#### ■災害時の市議会の動き

**議長**：災害発生時の行動マニュアルを作成してから、5年近くたちますが、検証するためにも訓練を行う必要があります。

**副議長**：他市の行政視察の際、年1回災害時を想定したオンライン議会を行う訓練をしていると聞きました。本市でも同様の訓練ができればいいと思います。

**委員**：災害発生時の行動マニュアルに「議員が地域の被災状況の把握をする」とありますが、情報収集する項目を決めておけば、全員が同じように動けるのではないのでしょうか。

**委員**：決めすぎると災害時は臨機応変に動けなくなると思います。大枠を決めておけばよいのではないのでしょうか。

**委員**：地域によって被災状況が異なるので、状況に応じた対応を適宜行うのが理想だと思います。議会として情報集約の仕組みを作って、情報共有の方法を決めて訓練することが大事ではないのでしょうか。

**委員**：以前勤めていた会社では、まず生存確認を最優先に行っていました。

**委員**：ほかの民間団体でも毎年本人、家族、職場の職員の生存確認の訓練を行っているところがあります。議会でもそういった訓練を行ってはどうでしょうか。

#### ■災害に強いまちづくりに向けて

**議長**：今後どのようにして市民と一緒に災害に強いまちづくりを行っていくべきでしょうか。市内では耐震化や備蓄、マニュアルの整備が進んでいます。

**委員**：市は避難所整備やマニュアル作成のほか、災害時に支援を要する人の要配慮者支援名簿も作成し、防災の取り組みを進めています。

**委員**：議員は、市の防災担当の部署と年1回は情報交換して、市民に最新の情報を伝えられるようにしておかなければならないと思います。

**副議長**：市が作成し、市民に全戸配布しているハザードマップはよくできていると思います。活用するための訓練が必要ではないのでしょうか。

**委員**：昨年は能登半島地震の発生や南海トラフ地震臨時情報の発表もありました。震災はいつ起きてもおかしくないです。

**副議長**：昨年の議員研修会では防災をテーマに取り上げたので、取り組みの参考にしたいと思っています。

**議長**：防災の情報が多岐に渡っており、一元的に整理できていないところがあります。この機会に一度、情報を整理して共有しておきたいと思っています。



左から 林委員、黒田委員、上田委員